

頌古德名傳



壽果如一句下二
茶尔慈心性乐醒
高尚古德德洞明
苞芽蕉粒法在佛以
更長生。以家添

地是。不。好。好。好。

恩。

孝。子。無。四。以。庶。年。五。

滿。地。陶。泉。古。安。共。

屨。叩。小。築。序。電。

三。五。一。日。山。之。法。畫。

台。箱。西。新。山。僧。

毫。呼。向。之。仗。人。榜。

初。定。散。弓。胡。象。

道。以。收。美。語。而。

去。

蓮華四十九傳

法華經聖觀音圖
主疏後探記於
深川古池畔小築

屬名



芭蕉翁古池真傳

這箇題號鐵柱

環溪禪師著語

東京

小築庵春湖輯
莫作菴示校

常如菴多山根本寺佛頂長老博覽

大悟の知後より 桃青翁舊交の師

より 近來江戸深川長慶寺

移移せしれより 桃青翁訪ふん

△塞翁盈津

△六祖來也緇素難辨

△曾復作什麼

本分無相。我是什麼物。答未會。

△箇瞎禿子為類為堆
矮子見戲

△這老年老心孤說一說二

為汝等諸人下百子看。一心法界

法界心。

老大作這般語宛是經者發意
見席打令呵大咲

△這少賣弄

と書て諸風子よふりぬらふと

△貴耳勿賤目好

よして法界と心の水音あり

とけり。実よ拙書ある者悟を

△以類而集隨喜是何

各隨喜をゆりしなるまゝ

△子者順父不順不孝

杉風漢々拙書あるを頼て我師

△果然

風雅よ参禱の切を頼て今も水音

△元來水音大悟這什麼

大悟の百子佛頂長老證明附法

△先不道乎破本抄

の如き息を授てゆりて今も天下

△目送不少

ふも送たるるを賀儀をぬら

△一音引衆音

嵐葉のえ水音の何音とみえ

連続する音の五文字

△好消息

さよのよ師をさよののの云

△逐塊者不獅子兒

我のの事をもえりよはく諸子

△這老賊

の言論をけり而信なきめんと欲せ

△鶉鳩鳴樹上

こころ試よ六の付五をりん

△勿妄想

△三十年後

有首をかくみちて録思よやあり

△鬼窟裏活計

杉風雷雲の五文字を出る嵐葉

△棺木裏瞠眼子

△大尊貴生

ち淋しきを何れ其角とせり

△一莖叶不無丈六金身夢不得

山吹や色即是空空即是色の也

△搭板漢

つらつらと身を調へんとせり

とらり云吾子の等しき付まぬ一理を

△始値知音峩洋曲高

ゆるけ色人丸の陀羅尼西行の讃

△豈啻十七字瞿曇四十九年一字不説

佛象もつらつらよ十七字の中よこめて

△濃轉其地來與汝相見

△出透光朋裏好作家

向上のつ路もおどい真如法性の光

△可謂萬夫不當

まことなちて遠く天下の何れを案

△婆心一片徹三世

ま今時の御人を正風の真路よみち

△傍若無人雖然如是有入不肯却知哉

まのんこと此のなるあ天地風雅

△瞻之仰之

也その象風雅也是風雅佛祖の

肝膽也

△誰家無清風明月
阿呵

月毎来四

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written vertically on the left page of an open book. The script is dense and appears to be a form of Arabic or Persian calligraphy. The right page is blank.

舟子も舟のまはりにあつた
舟のまはりにあつた
舟のまはりにあつた
舟のまはりにあつた

舟のまはりにあつた

慶應四年仲秋

小築庵

莫作菴

藏版

